呼吸管理委員会

委員長　石田　正之

概要

当院の呼吸管理委員会は、呼吸器内科、呼吸器外科、循環器内科、心臓血管外科、救急部、透析科および主として集中病棟の看護師、急性期臨床工学技士、理学療法士、医事課職員から構成され月 1 回委員会を開催している。2020 年からは、コロナ禍の考慮し集合をしての委員会開催は、検討案件があるときのみとし、その他の時は Web 開催もしくは誌上開催としている。

体制

昨年と変更はなく 17 名の委員で構成されている。

活動内容

委員会での活動報告を元にした、呼吸管理体制のありかたを日々検討し、臨床現場へのフィードバックや呼吸管理機器の更新、新たな機器の導入の検討を行っている。

もう一つの活動の柱となっているのが 2005 年から行っている、RCT（呼吸管理チーム）によるラウンドである。RCT ラウンドは適切な呼吸管理の構築、早期の呼吸器離脱を目標に、主治医とともに呼吸管理を行っている。

実績（図 1-6）

気管挿管による人工呼吸管理（IPPV）症例が 487 例、非侵襲的陽圧管理（NPPV）症例が 321 例で Nasal High Flow（NHF）症例が 108 例であった。このうち RCT は約 9 割の症例に介入を行っている。本年は、IPPV 症例は昨年に続き過去最高の症例数で、NPPV、NHF 管理症例数も過去に 2 番目に多い症例数であり、重症症例が多かった事がうかがえる。一方でどの呼吸及び酸素管理においても、管理時間に大きく変動はなく、むしろ呼吸器管理時間は全体的に短くなってきつつあり、症例数が増加をしても管理面の質の維持は担保されているものと考えられる。

また昨年は過去最も多い人工呼吸器関連肺炎（VAP）の合併を認めたが、感染対策、呼吸器からの早期離脱を図る事の徹底を行い、VAP 症例は減少している。

図 1

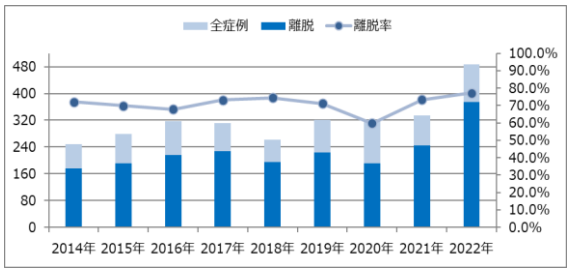

図 2

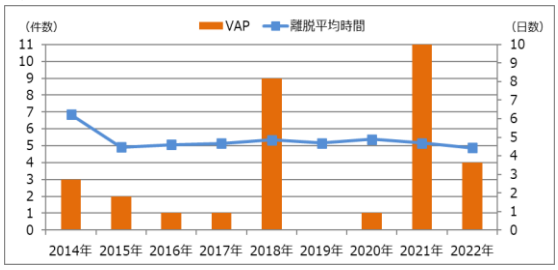

図 1：挿管呼吸管理患者数の年別推移

図 2：呼吸管理症例の平均管理時間と人工呼吸器関連肺炎（VAP）発生数の推移

図 3

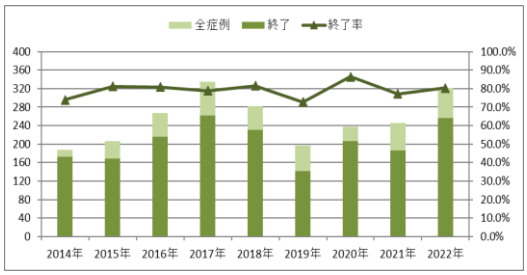

図 4

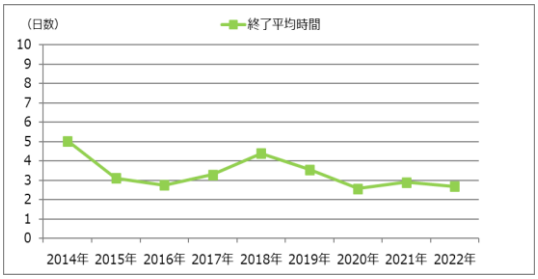

図 3：非侵襲的陽圧管理（NPPV）患者数年別推移

図 4：非侵襲的陽圧管理（NPPV）患者の平均管理時間の推移

図 5

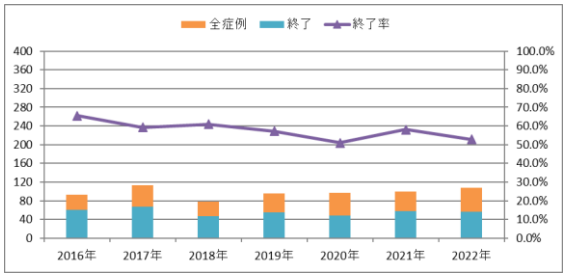

図 6

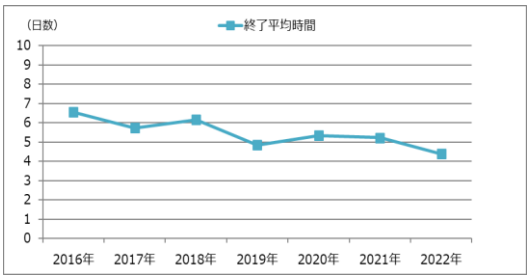

図 5： Nasal High Flow（NHF）管理患者数の年別推移

図 6：Nasal High Flow（NHF）管理患者数の平均管理時間の推移

課題

RCT チームは院内で周知、認識は十分であり、実績も蓄積されている。一方で、今後さらなる新しい展開としての方向性がここ数年に見いだせないまま時間が過ぎており、よりよい呼吸管理を提供するために何が必要なのか、模索中でもある。

また新型コロナウイルス感染症の教訓として、今後我々は、感染予防という観点を踏まえた呼吸管理の実践という使命があるが、十分な対応ができているとはいいがたく、毛族課題となっている。引き続き院内感染対策チームなど多の部署との密な連携を図り、より安全な呼吸管理体制の構築を考えている。